

## 沖永良部島から得られたハタ科魚類ヤマトゲメギスの黄緑色幼魚

著者	吉田 朋弘, 本村 浩之
雑誌名	Nature of Kagoshima
巻	45
ページ	189-191
発行年	2019-05-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/00031315">http://hdl.handle.net/10232/00031315</a>

# 沖永良部島から得られたハタ科魚類ヤマトゲメギスの黄緑色幼魚

吉田朋弘<sup>1</sup>・本村浩之<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 〒 851-2213 長崎市多良良町 1551-8 水産研究・教育機構 西海区水産研究所

<sup>2</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

## はじめに

ハタ科 Serranidae ヤマトゲメギス属 *Aporops* はヤマトゲメギス *Aporops bilinearis* Schultz, 1943 のみが有効とされている (Randall and Baldwin, 1997; 吉田・本村, 2014). ヤマトゲメギスは国内において、南鳥島、屋久島、奄美大島、喜界島、南大東島、および石垣島から記録されている (瀬能, 2013; 吉田・本村, 2014).

2018 年 10 月 23 日に奄美群島沖永良部島沖泊漁港沖において、ヤマトゲメギスの黄緑色幼魚が 1 個体採集された。これまでも黄色味を呈する幼魚が報告されているが、その写真が出版された例はないので、ここに報告する。なお、本標本は沖永良部島からの本種の標本に基づく初めての記録となる。

## 材料と方法

計数・計測方法は Randall and Baldwin (1997) にしたがった。標準体長は体長と表記し、デジタルノギスを用いて 0.1 mm まで行った。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

Yoshida, T. and H. Motomura. 2019. A yellowish-green colored juvenile of *Aporops bilinearis* (Serranidae) from Okinoerabu-jima island, Amami Islands, Kagoshima, Japan. *Nature of Kagoshima* 45: 189–191.

✉ TY: Seikai National Fisheries Research Institute, Japan Fisheries Research and Education Agency, 1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).

Published online: 11 January 2019

[http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_045/045-031.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-031.pdf)

## 結果と考察

*Aporops bilinearis* Schultz, 1943

ヤマトゲメギス (Fig 1; Table 1)

**標本** KAUM-I. 122377, 体長 17.5 mm, 奄美群島沖永良部島沖泊漁港沖西方 (27°23'54"N, 128°33'00"E), 水深 10–18 m, 上野大輔ほか, タモ網, 2018 年 10 月 23 日.

**記載** 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。体は細長く、やや側扁する。吻端から背鰭起部にかけての背面は緩やかに曲がる。口は大きく斜位で、口裂はわずかに斜行し、主上顎骨後縁は眼後縁を越える。両顎は絨毛状歯帯を有し、歯帯の幅は前方が広く、後方は狭い。鋤骨と口蓋骨に絨毛状歯帯がある。前鼻孔は短い管を有し、その先端が開孔する。後鼻孔は孔状で、眼前縁近くに開孔する。前鰭蓋骨の縁辺は円滑。前鰭蓋骨後縁に 1 本の太い棘があり、上向きに突き出る。側線は 2 本。前方側線は鰭蓋上方から背鰭第 3 棘基底直下にかけて曲線をなすように上昇し、背鰭軟条基底部中央下にかけて緩やかに下降する。後方側線は背鰭軟条基底部後方下から体軸上をはしる。背鰭起部は胸鰭基部下端直上よりやや前方に位置する。胸鰭先端は背鰭第 3 軟条基底直下に位置する。臀鰭起部は背鰭第 4 軟条基底直下に位置する。腹鰭は短く、その先端は背鰭第 3 棘基底直下に位置する。尾鰭は円形。

**色彩** 頭部は茶色がかった黄緑色を呈する。体側は黄緑色を呈する。背鰭、臀鰭、および尾鰭は黄緑色を呈し、縁辺は白色を呈する。腹鰭は透明で、黄色がかかる。胸鰭は半透明で、黄色を呈し、縁辺は黒色がかかる。

**分布** 本種はインド・太平洋に広く分布する



Fig. 1. Fresh specimen of *Aporops bilinearis* from west of Okidomari Fishing Port, Okinoerabu-jima island, Kagoshima, Japan (KAUM-I. 122377, 17.5 mm standard length).



Fig. 2. Fresh specimen of *Aporops bilinearis* from Tahiti, French Polynesia (KAUM-I. 108074, 35.7 mm standard length).

(Randall and Baldwin, 1997; 吉田・本村, 2014). 日本では南鳥島 (Randall and Baldwin, 1997; 瀬能, 2013), 屋久島 (吉田・本村, 2014), 奄美大島 (瀬能, 2000, 2013; 吉田・本村, 2014), 喜界島 (Kamohara, 1957; Kamohara and Yamakawa, 1968; Randall and Baldwin, 1997; 瀬能, 2000, 2013), 沖永良部島 (本研究), 南大東島 (吉郷, 2004; 吉郷ほか, 2005; 瀬能, 2013), および石垣島 (Randall and Baldwin, 1997; 瀬能, 2013) から記録されている。

**備考** 沖永良部島から採集された標本は、側線が2本あること、前鰓蓋骨棘が太く上向きに尖っていることからヤマトトゲメギス *A. bilinearis* と同定された。

Randall and Baldwin (1997) は西オーストラリアから得られた体長 16 mm の *A. bilinearis* が生鮮時一様に黄色であったと記述したが、写真を掲載しなかった。本研究で扱った沖永良部島産の体長 17.5 mm の個体 (Fig. 1) は体色が一様に黄緑色を呈することが確認された。タヒチから得られた体長 35.7 mm の個体 (Fig. 2) は体色が一様に茶褐色を呈するが、背鰭, 臀鰭, および尾鰭の外側

Table 1. Meristics and morphometrics of specimens of *Aporops bilinearis*.

	Okinoerabu-jima island KAUM-I. 122377	Tahiti KAUM-I. 108074
Standard length (SL, mm)	17.5	35.7
Dorsal-fin rays	VII, 24	VII, 24
Anal-fin rays	III, 18	III, 19
Pectoral-fin rays	16	16
Principal caudal rays	17	17
Anterior lateral-line scales	31	34
Posterior lateral-line scales	22	22
Gill rakers (upper + lower = total)	6 + 11 = 17	5 + 11 = 16
% of SL		
Body depth	22.9	25.5
Body width	12.0	14.6
Head length	36.6	35.3
Snout length	5.1	5.9
Orbit diameter	6.9	7.6
Interorbital width	3.4	2.5
Upper-jaw length	16.0	15.4
Caudal-peduncle depth	10.3	10.4
Caudal-peduncle length	8.0	7.8
Pre-dorsal-fin length	37.1	35.6
Pre-anal-fin length	58.9	61.9
Pre-pelvic-fin length	27.4	30.0
Dorsal-fin base	56.6	58.5
First dorsal-fin spine length	2.9	4.2
Last dorsal-fin spine length	4.0	5.3
Longest dorsal-fin soft ray length	11.4	12.6
Anal-fin base	29.1	29.1
First anal-fin spine length	2.3	2.5
Second anal-fin spine length	5.7	4.2
Third anal-fin spine length	2.3	2.5
Longest anal-fin soft ray length	12.6	11.5
Caudal-fin length	20.6	21.3
Pectoral-fin length	26.9	22.7
Pelvic-fin length	9.7	10.9

が、黄緑色がかかることから、本個体も幼魚時には黄色みを帯びていたと推測される。

日本国内におけるヤマトトゲメギスの分布は「分布」の項で述べたとおりであり、記載標本は本種の沖永良部島における標本に基づく初めての記録となった。

**比較標本** ヤマトトゲメギス *Aporops bilinearis*: KAUM-I. 108074, 体長 35.7 mm, フレンチポリネシア・タヒチ島 (17°46'59"S, 149°18'24"W), 水深 1.5 m, 2017 年 10 月 5 日。

## ■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアのみなさまと同博物館魚類分類学研究室のみなさまには適切な助言を頂いた。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業 - B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。

## ■ 引用文献

- Kamohara, T. 1957. List of fishes from Amami-Oshima and adjacent regions, Kagoshima Prefecture, Japan. Reports of the Usa Marine Biological Station, 4 (1): 1-65.
- Kamohara, T. and T. Yamakawa. 1968. Additional records of marine fishes from Amami (II). Reports of the Usa Marine Biological Station, 15 (2): 1-17.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. <http://www-museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>
- Randall, J. E. and C. C. Baldwin. 1997. Revision of the serranid fishes of the subtribe Pseudogrammina, with descriptions of five new species. Indo-Pacific Fishes, 26: 1-56, pl. 1.
- 瀬能 宏. 2000. ハタ科. 中坊徹次 (編), pp. 690-731, 1539-1547. 日本産魚類検索 全種の同定, 第二版. 東海大学出版会, 東京.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科. 中坊徹次 (編), pp. 757-802, 1960-1971. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Smith, J. L. B. 1953. The fishes of the family Pseudogrammidæ from East Africa. Annals and Magazine of Natural History, Series 12, 16 (67): 548-560.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2014. 屋久島から得られたハタ科魚類ヤマトトゲメギス *Aporops bilinearis* の分類学的再検討. Nature of Kagoshima, 40: 35-41.
- 吉郷英範. 2004. 南大東島で採集されたタイドプールと浅い潮下帯の魚類. 比和科学博物館研報, 43: 1-51, pls. 1-10.
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵目録 (IV). 比和町立科学博物館標本資料報告, 5: 1-51, pl. 1.